

草花検定実施への研究と準備

西村 悟郎(人文学部文化学科)

山 浩美 (非常勤講師)

丸山 美夏(園芸準備室)

浅岡みどり(非常勤講師)

小澤 文子(非常勤講師)

Trial of Plant Material Identification Test

NISHIMURA Goro, YAMA Hiromi, MARUYAMA Mika
ASAOKA Midori, OZAWA Ayako

Abstract

An identification test for the names of plants used in flower gardens was planned to be launched in 2012. In the fall of 2011, a trial examination was conducted to obtain know-how before beginning the real test. Examinations of second through fifth grade plants were conducted at Keisen University, both for registered student and open-enrollment classes. The second grade contains 70 plants with scientific, Japanese and family names. The third grade contains 60 plants with Japanese and family names. The fourth grade contains 40 plants with Japanese names. The fifth grade contains 20 plants with Japanese names. The results of the trial examination were discussed by the research group.

はじめに

恵泉女学園大学の多摩キャンパスにはボーダーガーデン、ハーブガーデン、ロックガーデン、シェードガーデン、模様花壇などがつくられ、季節の花

を咲かせており、学生の中にはそれらの草花の名前を知りたいという声がある。また、恵泉女学園では農芸専門学校(1945～49)、および短期大学園芸科・園芸生活科・園芸生活学科(1950～2005)の教科として、キャンパス内に咲く季節の草花の名前(学名、英名、和名、科名)や原産地、栽培方法などを紹介する授業が開講されていた。恵泉女学園大学園芸文化研究所では、2012年度から草花検定という形で学生と共に社会人も含めて、草花の名前を習得する機会を設ける計画が立ち上がり、2011年度はプロジェクトとして草花検定実施のための研究と準備に取り組んだ。

次の項目を取り上げて、調査・研究を行った。

1. 恵泉で行う草花検定の等級、検定項目および出題植物の検討
2. 2012年度実施に向けての、草花検定トライアル(試行)の実施
3. 他の機関で行われている花卉類に関する検定制度についての調査

1. 草花検定の等級および出題植物等の検討

検定の実施回数と等級分け、および出題植物等について検討した。

1) 検定の実施回数について

一年間に①春季と②夏一秋季の2回の検定を実施し、両者において同一の級を合格した受験者について、その級の合格と認めて認定証を発行する。

2) 検定の内容について

等級は1級から5級までの5段階とし、各級の植物数、出題内容、試験における出題数、および合格の基準については第1表に示した。検定には一般の学生も受けやすいように、5級(20植物)および4級(40植物)という、比較的扱う植物数の少ない級も含めた。今回のトライアルは夏一秋季の植物について行った。試験では写真で提示された草花の名前を答えるという形式を採用することとした。

2. 草花検定トライアルの実施

トライアルを社会人対象の公開講座と学生対象の授業で行った。検定の方法は、植物の花の写真を示して解答用紙に名前を書くこととした。それと

ともに、来年度の実施に向けてのいくつかのアンケートも行った。

(1) トライアルの実施内容

- 1) 山浩美担当の公開講座「タネから育てる花壇づくり」での実施
 - a. 問題配布 11月2日
 - b. 試験実施日 11月16日
 - c. 受験級と受験者数 3級 7名、4級 11名
- 2) 西村悟郎担当の公開講座「草花の名前に詳しい園芸家を目指そう」での実施
 - a. 問題配布 11月9日
 - b. 試験実施日 11月30日
 - c. 受験級と受験者数 2級 9名、3級 3名
- 3) 西村悟郎担当の文化学科の教科「文化領域基礎研究(園芸文化)」および「文化領域基礎研究(園芸ゼミ)」での実施
 - a. 問題配布 ①園芸文化 12月5日、②園芸ゼミ 12月8日
 - b. 試験実施日 ①園芸文化 12月19日、②園芸ゼミ 12月21日
 - c. 受験級と受験者数(両授業合計) 5級 36名(文化学科33名、人間環境学科3名)

(2) トライアルの結果

1) 社会人に対する公開講座での結果

a. 草花検定試験結果

ここでは山、西村の結果を級別にまとめて第2表に示した。2級の受験者9名のうち6名の合格者があったことは、検定に熱心に取り組んでいることが伺える。3、4級も約半数の合格があった。

b. アンケートの結果

- ① 最初に2012年度に草花検定が実施されたら受験するかどうか。また、受験する場合何級を受けるかをたずねた(第3表)

2級の受験者では受けたいと未定が半々であり、受ける場合は1級が2名、2級が4名であった。一方、3級の受験者では6割が受けることを希望し、そのすべてが3級の受験を希望してい

る。4級の受験者では受けないという意見が多くなり、来年は3級を希望するものが多かった。

この結果から、2級の受験者は来年に1級か2級の受験を希望し、3,4級はやはり3,4級の受験を希望することが分かった。

② 検定料についてのたずねた(第4表)

希望する金額としては全ての級で1000円が多かった。他に、500円、2000円もあった。

2) 学生に対する授業での結果

a. 草花検定の試験結果(第5表)

「園芸文化」および「園芸ゼミ」の授業では、5級に含まれる植物の中から毎週3植物を紹介して、翌週に小テストを繰り返して、最後に扱った20種類についてテストをした。

その結果、受講生36名中、合格者は6名で、合格率は16%であった。合格率は低かったが、その理由としては授業では草花文化の歴史や、草花の栽培に関する英文の翻訳などが主な内容で、草花の紹介は副次的に行われたことがあげられる。

b. アンケートの結果

① 先ず、来年度草花検定が実施された場合に、受験するかどうかとともに、受験する場合は何級を受験したいかたずねた(第6表 問1)。

多くの学生が来年度の受験を希望しており、1~3級まで受けたいことを希望する学生がいることが分かった。

② 次に、検定を通して花の名前を覚えた理由を尋ねた(第6表 問2)。

「花に興味があった」と「教養を広げるため」が多く、「将来、何かの役に立つから」は少なかった。文化学科の学生は、花についての知識を職業と結びつけるより、教養として受け止めていることが分かる。

③ 今回、花の名前を覚えることによって、花について注目するようになったかをたずねたところ(第6表 問3)、花の存在に気

付くようになったという答えが多かった。これは、授業で草花検定を取り入れることにより、学生にキャンパスの花壇などの、花の存在に気付かせることに有効であることを示している。

- ④ 大学で花の名前を紹介する講座が開かれたら受講するかどうか尋ねたところ、単位が伴えば受講するという意見が多かった(第7表)。

3. 千葉大学園芸学部花卉研究室(花葉会)主催「花卉産業必修1000属検定」についての調査

千葉大学園芸学部花卉研究室では1986年より、「花卉産業必修1000属検定」と題して、花卉産業で扱われる1000属の花弁類(草花、花木、ラン、温室植物、主な野菜、果樹)を扱う検定を実施している。今回は、ホームページに掲載された内容、および検定を担当しておられた花卉研究室の安藤敏夫元教授から聞き取りによる情報を得て内容をまとめ、恵泉の草花検定実施上の参考とした。

(1) 検定のキャッチフレーズ

検定のホームページには次のようなキャッチフレーズを提示して学生に受験を勧誘している。

「C級ライセンスで、学生レベルを抜き出ます。でも、花産業では常識レベル。B級ライセンスで、社会に出ても、同年代に、まず競争相手はいないでしょう。A級ライセンスともなれば、あなたはきっと、花卉産業の頭脳として脚光を浴びるでしょう」

(2) 検定の内容

検定はC級(初級)、B級(中級)、A級(上級)の3段階に分かれる。

- 1) C級では出題された300属の植物について、①30種の実物あるいは写真から科名と属名を問う、②学名で示された80科の和名を問う、③和名で示された20種の属名を問う、④学名で示された20属の和名を答える、代表的な6科に含まれる属名を20個問う、などの出題

がなされ合計200点満点で180点以上が合格。回答は2時間以内。

2) B級ではC級の300属に、異なる300属が加えられた600属につきが
出題範囲となる。試験では初級と類似の問題が数を増やして出題
される。300点満点で、270点以上が合格。2時間以内。

3) A級ではB級の300属に加えて、新たにA級の400属が加えられ700
属が出題範囲となる。300点満点で、270点以上が合格。2時間以内。

(3) 合格者数、検定料金、検定実施頻度

合格者数(1986年～現在)はC級 252名、B級 82名、A級 25名となっ
ている。合格者の氏名はホームページに紹介されている。検定料金は一
般が3,000円、学生が2,000円。学生の受検料は花卉研究室の卒業生の会
である花葉会が負担している。受検料は最初の受験時に支払うだけで、
再受験は無料。C級はほぼ毎月一回行われ、毎回20名ほどの受験生がある
が、1-2名しか合格しないので、受験の回数を重ねて合格にいたる。

(4) 受験者、受験人数等について(安藤教授より聞き取り)

ホームページ等で学外にも広報しているが、受験生のほとんどは千葉
大学園芸学部の学部生および別科生(2年制、定員40名)が占める。外部
からは、千葉大学の卒業生が教員をしている神奈川県の特設学校の生徒
が時々受験する程度である。

園芸学部や別科の教科に植物を紹介するような教科はない。また、検
定のための教師による特別な補修は行わない。学生同士で模擬試験や小
テストを行っている。検定についての広報はホームページおよび花葉会
の機関紙への掲載くらいで、特別には行っていない。

4. まとめ

2012年度の草花検定の実施に向けて、2011年度にプロジェクトとして研
究・準備を行った。まず、検定の実施内容を検討した。検定は1年間の春季
と夏一秋季の2回に分けて同じ等級と出題形式で実施することとした。等
級は1-5級とし、それぞれの出題は1級では110植物について学名・英名・和
名・科名、2級では70植物について学名・和名・科名、3級では60植物につい
て和名、科名、4級では40植物について和名、5級では20植物について和名とし

た。試験は植物の写真を提示して、それについて名前を答えるという形式とした。各級の配点と合格点についても検討した。

このように検定の実施内容を検討した後、その内容に基づいてトライアル(試行)として社会人対象の公開講座と学生対象の授業での草花検定を行い、受験者にアンケートを行った。公開講座では山浩美、西村悟郎の担当する講座で合計30名が2~3級を受験した。2級では9名の受験者のうち6名が合格、3級では10名のうち5名、4級では11名のうち4名の合格があった。級の難度が高くなるほど、受験者もよく準備をして合格率が上がる結果が出た。次に、2012年度に草花検定が実施された場合の受験希望と級について聞いたところ、今年度に受験した級の難度が高くなるほど、受験希望者が増え、希望する級も難度が高くなった。受験料については1回1000円の希望が最も多かった。

次に、学生対象の授業でのトライアルについてみると、5級に含まれる20植物について、毎回の授業で3植物ずつ紹介とテストを繰り返し、最後に5級の試験を行ったが、36名のうち合格は6名であった。合格者の数が少ない理由としては、授業内容が花卉の歴史と英文講読が中心で、植物を紹介する内容ではないことがあげられる。アンケートでは草花検定が実施されたら受験したいという希望が多く、希望する級も1~5級まで広がった。花の名前を覚えたい理由としては、「花に興味があるから」が多く、「将来に役にたつから」は少なかった。受講生は文化学科の学生が多いため、教養として花の知識を求めているといえる。花の名前を覚える講義が開かれたら受講しますかという問いには、単位が認定されれば受講したいという答えが圧倒的に多かった。単位認定を伴う、花の名前を知る講義の開講が望まれる。

最後に、千葉大学園芸学部花卉研究室主催の「花卉産業必修1000属検定」の内容について紹介した。花卉産業に従事するものにとって、植物の属名を知ることは必須のことなので、この検定を開催して学生に受検を奨励している。この検定の受講生はほとんどが学生で、対外的に特別な広報はしていない。ホームページで紹介されている合格者には、現在花卉の研究および産業の分野で活躍しておられる方を見かけるので、この検定が学生の花卉園芸の知識の定着に有効に働いていることが分かる。

2012年度から恵泉で主催する花卉検定を通して、学生がキャンパスの花壇に咲く草花に親しみ、また、学生と社会人を含めて草花の名前に詳しい園芸家が育って行くことを期待している。

第1表 春および夏一秋季、それぞれの検定実施内容

級	植物数	出題内容	出題数	合格の基準
5	20	和名	15	30点満点で90%以上 (和名2点)
4	40	和名	25	50点満点で90%以上 (和名2点)
3	60	和名、科名	30	120点満点で85%以上 (和名・科名各2点)
2	70	学名、和名、科名	40	320点満点で80%以上 (学名4点、和名・科名2点)
1	110	学名、英名、和名、 科名	50	500点満点で80%以上 (学名4点、英名・和名・科名2点)

第2表 山、西村担当の公開講座における草花検定試行の結果

受験者	2級	3級	4級
	240点満点、 合格点204点	120点満点、 合格点102点以上	50点満点、 合格点45点以上
1	235	120点	49
2	232	120	48
3	226	118	47
4	223	115	45 合格
5	221	110 合格	44
6	207 合格	94	41
7	185	84	34
8	104	74	28
9	42	55	28
10		27	26
11			8

第3表 山、西村の担当の公開講座におけるアンケート結果

質問内容	選択肢	2級受験者	3級受験者	4級受験者
1. 来年度に草花検定が実施されたら受験しますか	1. 受ける	5	6	5
	2. 受けない	0	3	7
	3. 未定	4	1	0
2. 来年度に受験する場合、何級を受けますか	1. 1級	2	0	0
	2. 2級	4	0	0
	3. 3級	0	6	3
	4. 4級	0	0	2
	5. 未定	3	1	0

第4表 来年度に草花検定が実施された場合、検定料はいくらくらいが適切と考えますか

	2級受験者	3級受験者	4級受験者
1. 500円	2名	0	3
2. 1000円	4	6	2
3. 2000円	2	3	2
4. 3000円	0	0	1

第5表 西村担当授業「園芸文化」、および「園芸ゼミ」における検定試験結果

得点範囲(40点満点、合格点36点)	学生数
40点満点	2
36～39 合格	4
30～35	8
25～29	1
24以下	21

第6表 西村担当授業でのアンケート結果

質問内容	選択肢	人数
問1. 草花検定が実施されたら何級を受けますか	1. 1級	1
	2. 2-3級	5
	3. 4級	9
	4. 5級	7
	5. 受けたいとは思わない	7
問2. あなたが花の名前を覚えた理由は何ですか	1. 花に興味があったから	12
	2. 教養を広げるため	12
	3. 将来、何かの役に立つから	2
	4. 授業の課題だから	8
問3. 授業で花の名前を覚えたことによって以前より花に注意が向くようになりましたか。	1. キャンパスの花壇を見に行くようになった	4
	2. 以前より花の存在に気付くようになった	23
	3. 以前と変わらない	6

第7表 花の名前を紹介する講座が開かれたら受講しますか

質問内容	回答数
1. 単位が取れば受講したい	22名
2. 単位が取れなくても、時間が空いておれば受講したい	8
3. 受講したいとは思わない	4